



中学生インタビュー、海外事業の実態に迫る！

～「海外事業課の仕事って??」～

作成：上下水道局海外事業課 発行日：令和2年12月25日



市役所の仕事は多岐に渡り、学生の皆さんには、わかりにくいものも多いかと思いますが、**未来を担う若者に、市役所の業務の内容ややりがいを理解して頂くことも私たちの重要な仕事**です。



カンボジアでの現地指導の様子

今年11月、海外事業課に九州国際大学附属中学校2年生のお二人が、**市役所の仕事に関するインタビュー**のため、来課しました。学校の授業の一環として「**地域や社会が抱える課題や問題点**」について考えることを目的に、2年生全体で市役所の様々な部署を訪問しているそうです。

インタビューでは、平成26年にJICAの短期専門家として、カンボジアで2か月間の現地指導を行った経験談を交えながら、お話をしました。非常に熱心に話を聞いて頂いて、30分の予定が、あっという間に1時間経っていました。後日、丁寧なお礼のお手紙とレポートが届きました。職員としても、**中学生からの視点や感想を伺う**ことができ貴重な経験となりました。

未来を担う子供達に、海外事業課の取組内容を説明し、理解して頂くことで、**多くの応援団を今後も増やしていきたい**と思います。

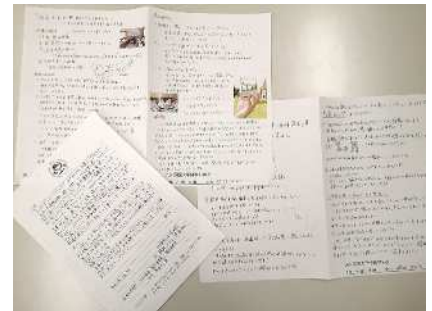
お二人のレポートから

「初めてのことがたくさん」

インタビュー中におっしゃっていた、「初めてのことがたくさん」という言葉が印象に残っています。確かに外国と協働する上で初めてのことはたくさんありそうだと思いますけれど、その中でも人のためになるようにしているところに尊敬の念を抱きました。

「水の大切さ」

今まで小学生の時水に関する学習をしたことはありましたが海外と関わっていることは知りませんでした。もし、日本の水道技術がなければ私たちの暮らしはもたない出来ないと、カンボジアの人々も、水が原因で病気になったりしていたかもしれないと考えれば「水」というものは人が生きていく上でとても重要なことだと改めて分かりました。水を送り届けてくれている方々に感謝の気持ちを知ることができました。



後日届いたお手紙とレポート完成度が高く、驚きました

「言葉の壁」

市職員を海外に派遣する時、言語の壁に困ることは?

！ ともある！

英語ではない言語の国へ行った時は、英語からしゃべると「相当ムズい」のだそうです。その言語に話してもらえない時も！

ちゃんと伝わっているのか不安なのだそうです！

さらに活動しながらレポートを書いたりすることもあるそうです

報告者：上下水道局 海外事業課 主査 井手 美由紀

九州国際大学附属中学校の修学旅行先はオーストラリアで、その日程の中にはホームステイ等も組み込まれているのだそうです。

私自身、こうして海外事業に携わることになったのも、原点は学生時代に語学研修で海外に滞在したことによるところが大きく、ぜひ経験してみたいなと思います。すべてコロナウィルス次第…。



朝焼けの中のアンコールワット